

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077800086
法人名	有限会社ウェルフェアサービス
事業所名	グループホームほほえみ館
所在地	福岡県久留米市城島町城島37-2
自己評価作成日	2019年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	2019年12月3日	評価結果確定日	2020年1月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、利用者の方達が住み慣れた町でゆったり楽しくありのままに過ごして頂けるよう、職員は介護力を向上させている。また、上野医院との医療連携の充実を図り、利用者様への安心を確立している。軽症の方から、医療依存度の高いターミナルの方まで幅広く対応している。スタッフ間のチームワークが良く、長く勤めているスタッフが多いため、より家庭的な雰囲気作りが出来ており、入居初期から看取りまで同じスタッフで関わる事が出来ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所内には家庭的雰囲気が流れており、利用者はそれぞれが思い思いの時間を過ごしている。職員は常に利用者を尊重した対応を心がけ、利用者が安心し、信頼できる関係作りのため、事業所全体で接遇面にも力を入れている。長く勤めている職員も多く、職員同士の連携が図られており、職歴の短い職員も働きやすい職場環境を整えている。隣接する医療機関や医療従事者である管理者からのアドバイスを元に看取り指針を作成し、職員に対して看取りケアの研修を催すなど、利用者が最期まで安心して過ごすことのできるよう努めている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各階に掲示し、常にスタッフの目に入るようにしている。「住み慣れた町で、ゆったり楽しくありのままに過ごしていただく」を理念に掲げ、職員全員がその理念を念頭にケアにあたっている。	理念にある「ありのままに過ごす」空間や時間を提供できているのか、毎月のスタッフ会議でそれぞれの言動を振り返り、ケアに活かしている。職員一人ひとりが利用者向き合い、個々のペースに合った支援を実現できるよう事業所全体で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と一緒に近所のお店に買い物に出掛けたり、地域で開催されるイベントや酒造祭りには積極的に参加している。 地域ケア会議に毎月参加している。	地域のゴミ出し、一斉清掃や資源回収、系列施設で開催された「なごみ祭り」に地域交流として積極的に参加しており、率先して地域の輪の中に入って、地域の一員としての交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や見学で訪れられた方など認知症の方をもたれる家族の相談などにのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットや困難事例等を議題にあげて報告している。いただいた意見やアドバイスはスタッフ会議で報告、共有し、サービスの質の向上に繋げている。	自治会長、市の職員、地域包括支援センター職員が参加している。ヒヤリハット事例の報告時に家族への報告時間について意見があり、実際に改善につなげている。利用者家族にも参加を呼び掛けているが、実際に参加するまでには至っていない。	利用者家族に事業所の現状や取り組みを知ってもらうだけでなく、事業所の抱える課題について関係者と意見を交えていくことで、事業所のサービス向上につながると期待する。利用者家族が参加しやすい日時に変更するなど、利用者家族の参加につながる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、事業所の取り組みや課題などを報告し、アドバイスを頂いている。	運営推進会議に欠席された場合には、会議録や広報誌を送付し、取り組みを伝えている。電話でも相談したり、市に設置しているパンフレットが無くなったら、補充の連絡をもらうこともあり、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、スタッフ会議で定期的に研修を行っており、職員は十分理解している。トラックなどの往来が多い道路に面しているため、玄関は終日施錠し、利用者が外に出られる時は職員と一緒に付き添っている。施錠による危険防止については、行政とご家族様に説明をして同意を得ている。	外部研修への参加、内部研修では職員1名が講師役となり職員全員への伝達講習を行い、身体拘束を行うことでの弊害などを学んでいる。交通量の多い道路に面しているため、利用者の安全を考え、玄関施錠していることについては、行政や家族へ詳しく説明し理解を求めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的にどうということが虐待になるのか、管理者及びスタッフが参加するスタッフ会議にて定期的に研修を行い、心身両面の虐待が見過ごされることがないように努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及びスタッフが参加するスタッフ会議で、定期的に研修を行っている。資料をスタッフやご家族の目に届きやすい所に置いている。	実際の成年後見制度の活用事例や年2回開催している権利擁護の内部勉強会を通して、職員は制度への理解を深めている。パンフレットや相談窓口などの情報を揃え、家族や利用者からの相談にも対応できるよう準備している。	全ての職員が成年後見制度と日常生活自立支援事業の違いや概要を理解し、利用者や家族からの相談に迅速に対応できるように、職員の学ぶ機会のより一層の充実に期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事前にしっかりと説明を行い、疑問点や不安点がないか確認を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。入居時、面会時等に意見や要望を伺い、スタッフ会議で話し合い出来る限り実践している。介護相談員に来て頂き、利用者様が外部者へ要望を表わせる機会を設けている。	家族訪問時に積極的に声を掛け、意見や要望を言い出しやすい関係作りに努めている。意見箱を設置し、行政の相談窓口のポスターも掲示するなど、直接言いづらい意見も表に出せるように配慮している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、代表者、管理者、スタッフが参加するスタッフ会議を開催し、提案を全職員で協議する機会を設け反映させている。	個人面談を半年に1回行い、職員の意見や提案を直接聞く機会を設けている。管理者は職員と一緒に利用者への対応に当たる中で、日頃の相談や小さな要望などの現場の声を吸い上げ、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス策定により個々の状況を把握し、給与に反映させ各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、経験、性別を理由を採用から排除することはせず、高齢者の方への思いや積極性を第一に考慮している。幅広い年齢層のスタッフが、それぞれの持ち味を活かして働くことで、様々な認知症の症状を抱える利用者様を支えている。	30代から60代のスタッフが勤務しており、ギターや日舞、アロマセラピーの特技を敬老会などのイベントで披露している。過去には外国籍の職員が勤務していたこともあり、採用時には高齢者への思いを重視し、資格取得希望者に出来る範囲で支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ会にて定期的に人権について研修を実施している。	利用者の人権について外部研修や内部研修で学ぶ機会があり、利用者を人生の大先輩として敬う気持ちを忘れず、支援に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップに繋がる研修や資格取得を積極的に勧め、シフト調整や研修費用の面からもバックアップしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係機関である特別養護老人ホームでの研修等に参加し、お互いの取り組みを各施設の職員間で話すことで、サービスの質の向上させるよう努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査にて心身の状況や生活歴等を把握し、全職員で共有している。入居後も、本人の要望等が出やすいよう積極的にコミュニケーションをとり、早い段階で安心感と信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前調査時に、困っていることや要望を伺うようにしている。入居後も、要望等を気兼ねなく言っていただけのように、明るい雰囲気作りを心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や見学にいられた段階で、本人・ご家族のニーズの把握に努め、必要なら居宅介護支援事業者等に繋げるなどして対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないよう、本人と話しをする中で各々に苦にならない出来ることを見つけ、洗濯物、野菜の皮むき等を手伝って頂いている。畑仕事などは、利用者様に教えて頂きながら、一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が不安な時の電話対応、一時帰宅時の受け入れ等をしてもらっている。不穏時のケアなどで対応に苦慮している部分があれば、率直にご家族にお伝えし、話す機会を設けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用されていた美容室や病院等に行けるよう努めている。	地域の友人やお茶の先生が会いに来てくれている。入居前よりお参りしていたお寺や神社などに付き添うなど関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、気の合う方会わない方を把握し、必要時は職員が間に入っている。カレンダー等の大きな作品を利用者様同士会話しながら協力して作っていただいたり、利用者様が他利用者の手伝いをされている時は見守り行き、必要時にサポートをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、不安なこと等があれば相談に応じる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話やご家族からの情報提供で、本人の思いや意向の把握に努めている。うまく言葉で表せない方についても、表情や行動などを観察したり、ご家族からの情報をもとにスタッフ間で話し合い、意向の把握に努めている。	家族から、利用者の昔からの趣味やこれまでの生活などの情報を収集し、日常の会話や表情から思いや意向を把握している。利用者の思いについて、職員全員で相談や協議する場を設け、本人本位となるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集だけでは聞き取れなかったことは、日々の生活の中で聞いたり、ご家族が面会に来られた際に聞き取り、把握に努めている。以前利用されていたサービスがあれば、情報を得るようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランをもとに日々の様子をケース記録に記入し、情報を共有し把握している。さらにケアカンファレンス内で、引き出せる力等がないか話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会時や、スタッフ会議にて課題やケアのあり方を検討し、本人にとって一番良いサービスができるよう努めている。又、PTや栄養士とも連携を取っている。	担当職員と計画作成者、管理者で協議し、主治医の意見を反映しながら介護計画を作成している。月1回のスタッフ会議で意見を出し合い、関係者からのアドバイスも取り入れつつ、利用者の現状に沿った内容となるように見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活での変化や気づきを記録に記入している。ケアプランがすぐに目に入るように工夫している。声かけの仕方、工夫なども具体的に記入し、ケアプランの見直しにも活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診にご家族が付き添うことが困難な場合は、グループホーム職員が受診の同行を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の理髪店の方に来館して頂き、散髪をしてもらっている。また、近くの店、コンビニ等を利用して頂いたり、協力を頂いたりして、楽しみのある生活を送れるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始時及び適宜、かかりつけ医や受診についての希望を伺っている。受診時には必要に応じてスタッフが同行し、受診ノートやお薬手帳等を持参して情報を医師に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望する医療機関を受診している。医療機関受診時は、家族と協力しながら、受診結果や服薬情報の共有に努めている。利用者が適切な医療を受けられるよう、隣接する医療機関と協力関係を築いている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師と母体医院の看護師と密に情報交換を行い、毎日の利用者様の様子を医院に報告している。様子に異常が見られる時はすぐに連絡し、指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常の受診や緊急時の搬送にスタッフが同行し病院関係者に情報提供を行っている。入院後も訪問を行い、状態の把握や生活上の注意点について病院関係者と情報を共有し、安心して入院生活を送れるよう、またスムーズにホームに戻るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の方針は、入居時にお伝えし、希望もその時にお聞きしている。本人様の日々の容態は併設の医療機関に適宜情報提供しており、病状の変化等がある時は院長と共にご家族へ説明し、同じ思いと方針で支援できるよう努めている。	契約時に重度化した場合についての希望を聞き、事業所の看取り指針を示しながら説明をしている。利用者の希望に沿った支援を実現するために、家族や職員、かかりつけ医などの関係者を交えて、話し合っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は併設の病院にすぐに報告し、必要な処置が受けられるようにしている。マニュアルが整備されているが、介護職員それぞれが応急手当等ができるような訓練は実施できていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定した避難訓練を年2回行い、全職員が避難方法を身につけられるよう努めている。緊急通報装置には地域の方の電話番号も登録させて頂いており、いざという時は協力を得られるようにしている。	火災を想定した避難訓練を定期的に行い、火元の場所によって第一次避難場所を分けている。過去に浸水被害にあったことがあり、水害時の防災マニュアルを作成し、非常時の食料や水、毛布を備蓄するなど、利用者が安全に避難できる体制を整えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経験豊かな先輩として敬う気持ちを忘れずに対応している。認知症による混乱や失禁への対応時も、その人を傷つけないよう配慮し、入室の際は必ずノックをするようにしている。	利用者は人生の大先輩であり、敬う気持ちを持ちながら対応している。言葉遣いや声のかけ方、トイレ誘導の仕方など、利用者の尊厳やプライバシーに配慮することの重要性を理解している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の出来る力に応じて、選択しやすい声かけを行い、やりたい事ややりたくない事など、希望を伺っている。言葉で表せない方は表情や行動で思いを把握するよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、就寝時間等、その方のペースや気分、希望に合わせて対応している。行動の先取りをせず、まずは見守り、その方の意図を汲み取って必要なケアを行うようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択が困難な方は、ご家族の協力の下季節に応じた衣服の準備をしたり、その人らしいお洒落が出来るよう支援している。ほほ寝たきりの方でも、ブラシを渡せば鏡を見ながら髪をとかれるなど、ささいな動作を見逃さず大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの物を把握し食札にも記入することで情報共有している。お好きな物を個別に準備したり、買い物に行ったりしている。簡単な野菜の皮むきや配膳等、本人の出来ることに応じて頂いている。	利用者の好みやアレルギーなどの情報を記載した「食札」を作成し、職員間で情報共有している。テーブル拭きや洗い物など、利用者の状態に合わせて一緒に食事の準備を行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によって献立が生まれ、必要に応じて栄養士や歯科衛生士と連携しソフト食や高カロリー食を利用している。水分摂取量が少ないと思われる利用者様に対しては、専用のチェックシートで水分量のチェックをしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に口腔ケアをして頂き、必要に応じて職員が介助している。また、口腔ケアの研修や、訪問歯科による指導を受け、その方に適した口腔ケアや道具の選定を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートで可能な限り排泄パターンの把握に努めている。パットは数種類用意し、その方が一番不快なく必要に応じて使用できるようにしている。トイレ内に、名前を隠して置いたりして。	バイタルチェック表に排泄記録を記入し、排泄パターンを把握している。パターンを見ながら声をかけて誘導し、トイレでの排泄が出来るように支援している。本人の意向や状態に合わせて、パットやリハビリパンツを活用するなどして、自立支援に向けて工夫もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みに応じて、毎朝乳製品を提供したり、管理栄養士の献立に基づき食物繊維を多く含む食事の摂取に努めている。また、運動の機会を作ったり、必要に応じて主治医への相談も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	無理な声かけは行わず、本人の入りたいタイミングを見つけて入浴して頂いている。お風呂で唄ったり、お話をしたりと、入浴を楽しんで頂けるように支援している。	曜日や時間帯は可能な範囲で指定はせず、利用者の希望するタイミングで入浴を楽しむことができる。入浴を拒否される場合は、職員や時間帯を変えたり、清拭を提案したりして、利用者が清潔な状態を保てるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時や面会時、ご家族に睡眠の状況について伺い対応している。運動や日光に当たる時間を大切にして、スムーズな睡眠が取れるよう配慮している。疲れていても休息の行動に結びつかない方は、様子を見ながらこちらから声かけするなどして支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳をカルテの所定の位置に挟み、全職員がいつでも内服薬の注意点等について確認が出来るようにしている。隣にある薬局の薬剤師、施設看護師、スタッフが、症状について情報を共有出来るよう日頃から密に連携を取っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や好きなこと等を把握し、行事の際に歌を披露してもらったり、家事参加や畑作りなどで役割りが持てるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外へ出る事が出来る方と、難しい方もいる。外へ出たい方には、出来る限り職員と一緒に散歩等行けるようにしている。本人様の希望で、ご家族と協力して、生まれ故郷の家に行った方もいる。	天気の良い日は近くの遊歩道への散歩やコンビニへ買い物に出かけたりしている。利用者が希望する場合は、家族の協力を得ながら、自宅までの外出支援も行っている。誕生日には、隣のケーキ屋へ誕生日ケーキを食べに出かけるなど、外出支援に力を入れている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族に希望を伺い、ご自分でお金を所持出来るよう支援している。金銭管理が難しい方については、ご家族からお小遣いを預かっており、本人の希望に応じて嗜好品等を購入出来るようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、お正月の年賀状やお手紙を書いていたideている。また、希望される時には電話も出来るように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の掲示物で季節感を感じて頂けるようにしている。室温、湿度にも気を配り、不快感を抱かれないようにしている。フロアは限られた場所であるため、難聴の方がテレビの音を大きくされたりと、利用者の方全員に居心地の良い空間作りが難しい。	リビングは中庭に面しており、自然の明るい光が取り入れられている。利用者の刺激とならないように、カーテンで光を調節したり、新鮮な空気を取り入れるために換気をしたりするなど、過ごしやすい空間となるよう配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の、気の合う・合わないを把握し、大きさの違うテーブルを用意し配慮を工夫することで、気の合う方同士過ごせるよう配慮している。また、テーブル席とは別にソファーも置き利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に応じて、奥様のお位牌や写真、家具などを持ち込み、安心して過ごせるよう配慮している。	利用者が落ち着いて過ごせる空間となるよう、馴染み深い日用品や家具を配置し、利用者の作成した工芸品や家族写真も飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	目に付きやすい所に大きめの表示を付けることで、分かりやすく混乱しにくい生活環境づくりに努めている。また、ホーム内はバリアフリーとなっており、自力歩行が可能な方も、車イスの方も、安全に移動することができるようになっている。		